

# 9 古文1 古典の仮名遣い

組	
番号	
氏名	

1 次は、「徒然草」の冒頭の部分です。――部をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

【平成二十一年度 全国学力調査・改題】

つれづれなるままに、日暮らし、硯すずりにおかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

あやしう

ものぐるほしけれ

2 次の和歌の――部をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

陸奥みちのくのしのぶもちずり誰たれゆゑに乱れそめにし我われならなくに

いにしへの奈良ならの都みやこの八重桜やへざくらけふ九重ここのへにほひぬるかな

(「小倉百人一首」より)

ゆゑに



けふ



にほひぬるかな

